

謹 弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

石 谷 直 昌 氏 防 府医師会 2 月 12 日 享 年 79

松 岡 和 典 氏 下関市医師会 2 月 24 日 享 年 87

編 集 後 記

突然ですが“One Health”という言葉をご存じでしょうか？

“One Health”とは「人、動物、環境（生態系）の健康は相互に関連していて一つである」という考え方である。1998 年にマレーシアで発生したニパウイルス感染症（豚からヒトへの感染が確認された感染症でヒトでは脳炎を主徴として致死率は 50%に達する）をきっかけに、2004 年にアメリカで開催された野生生物保護学会が「One World One Health」をテーマにしたことが始まりのようである。2013 年に、日本医師会と日本獣医師会が One Health の理念に基づき学術協定推進の覚書を締結し、昨年 11 月には、北九州市で「第 2 回世界獣医師会－世界医師会“One Health”に関する国際会議」がアジアで初めて開催された。この会議では、薬剤耐性（AMR）対策のセッションも設けられた。AMR 対策は、世界的規模での行動が必要だが、まずは各国の取組みが重要であり、日本でも昨年 4 月に「AMR 対策アクションプラン（2016－2020）」を策定して対策を加速しようとしている。最近の厚労省の動向としては、「抗微生物薬適正使用の手引き」策定のたたき台が議論されたり、「ワンヘルス動向調査検討会」では都道府県別の抗菌薬使用量や耐性率の公表が提案されたりしている。都道府県ごとの取組みについては、県行政主導が基本的スタイルとしても、山口地域感染制御チームなど県内幾つかで開催されているネットワーク会議などの具体的な取組みが、適切な規模（たとえば 2 次医療圏ごと）でなるべく早く行われることが必要と考える。

県医師会では、昨年から理事会時に重要課題を中心にフリートーキングを行っているが、今回のテーマは AMR が予定されている。「普及啓発教育」は ARM 対策アクションプランの 1 項目でもあるので、「生涯教育セミナーの演題として ARM を取り上げる」ことを提案してみようかと思っている。

ともあれ、“One Health”の概念を理解し、身近にできる AMR 対策を臨床現場で日々丁寧に実践することは私の責務であろう。

（常任理事 今村 孝子）